

南太秦だより

平成26年度後期
学校評価のおしらせ

全4ページで、学校評価の結果をお知らせします。ぜひ
ご一読いただき、今後の取組にご協力いただきますようよ
ろしくお願いします。

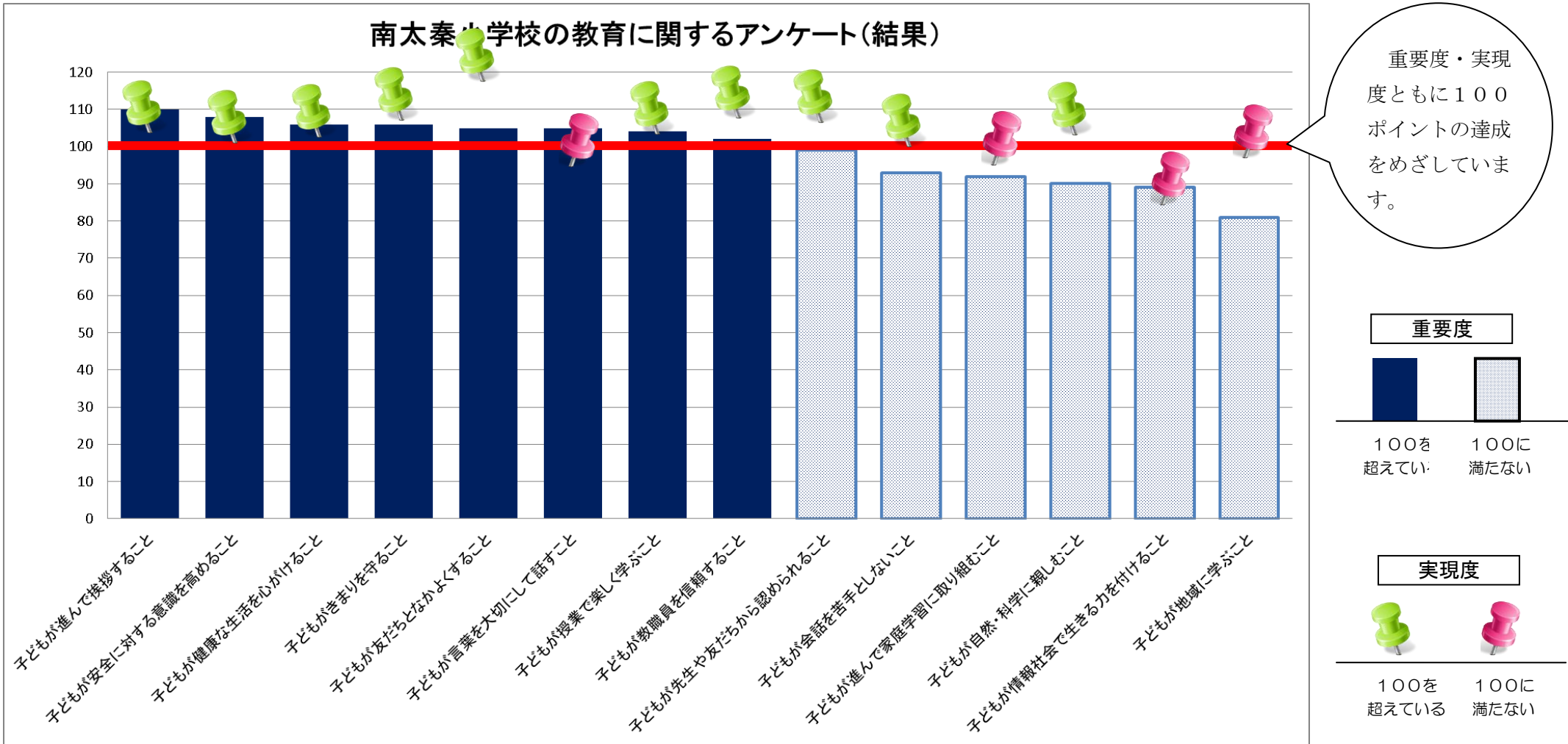
平成27年3月19日
京都市立南太秦小学校
校長 乗本 栄子

このページのグラフは、保護者の皆様にご協力いただいた「南太秦小学校の教育に関するアンケート」の結果をまとめたものです。本校が推進する教育について、保護者の皆様が高い関心をもち、またご協力いただいていることがよく分かり、教職員一同、大変ありがたく思っております。

ただ、重要度の観点から、6つの項目については目標とする100ポイントに到達していません。日々取り組んでいるコミュニケーション活動や「地域に学ぶ」教育、重点化している自然・科学教育、家庭学習など、もっともってご理解いただくよう、丁寧な発信を心掛けなければならないと強く感じております。

また、実現度の観点から、次年度これまで以上に力を注がなければならない教育内容についてのご示唆を得たと認識しております。2ページ目に示しました「児童のふりかえり」結果から見える本校児童の実態に即して、わたしたちが行うべきことを3ページ目以降にまとめておりますので、ぜひお読みいただき、変わらぬご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

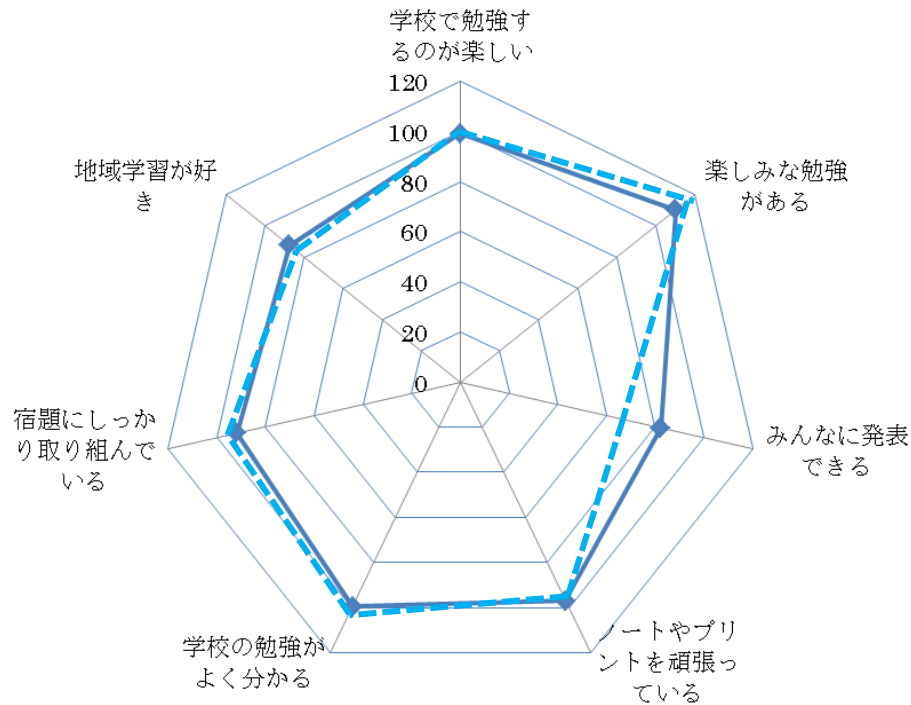
南太秦小学校の教育に関するアンケート(結果)



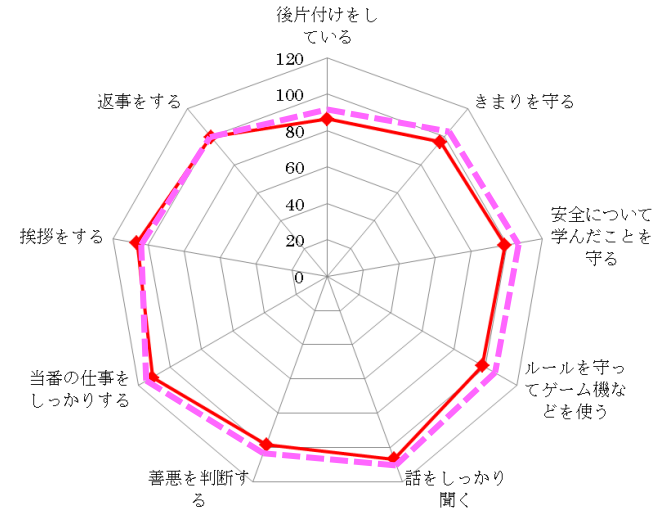
友だちのことを大切に、まじめにコツコツがんばるすなおな子、ただあとしまつは少し苦手で、きまいをつい忘れてしまう…そんな南太秦の子どもたちの姿が見えてきます。

(2月実施の「みんなのふりかえりシート」の集計結果をもとに、教職員で分析しました)

学習意欲



規範意識

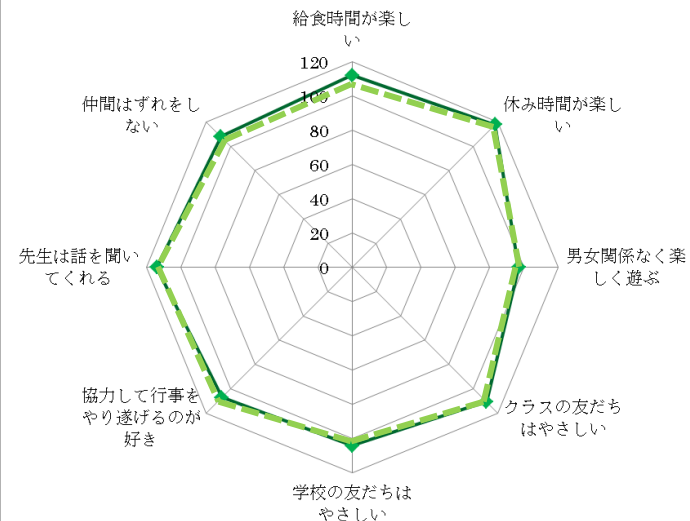


平成26年度後期
(今回)

平成26年度前期

100ポイントの達成をめざしています。

所属感



児童のふりかえりの結果は、前期・後期ともに大きな変化はありませんでしたので、これが現在の南太秦の児童の実態であると考えます。自分の考えを発表しようとする意欲についてポイントが上昇していること、地域学習に対する関心が前回よりも高くなっていることなどうれしい変化もありますが、「学習意欲」に関する項目のグラフが、「規範意識」「所属感」に関する項目のグラフに比べ伸び幅が少ないことが確認できます。ひたむきさやすなおさが学習意欲につながるような授業・取組をめざします。



次年度に向けて ～3つのステップ～

子ども自身が「やりぬく子」をめざしがんばり続けることのできる環境づくりをめざします。

- すべての教科や領域で、「学習意欲を高める」方策を考えます。そのためまず必要なのは、「なんだろう。」「なぜだろう。」と感じ、「知りたい。」「つきとめたい。」と感じること。**課題を見付ける力**です。そしてもう一つ、どうすればそのゴールにたどり着けるかを考えること。**追究する方法を選ぶ力**です。これらをていねいに育てていきます。
- 家庭学習と学習意欲にも大きな関係があり、「やらされている」と思っているうちはなかなか学力向上につながりません。学校の授業と家庭学習がひとつつながりになって、子どもの学力は確かなものになります。**その成果を子ども自身が感じ取れるよう、指導の在り方を検討**していきますので、保護者の皆様のご協力をお願いします。
- 今、「法やきまりを尊重する」ことが、社会全体で求められています。かつて会津藩（現在の福島県）にあった「ならぬことはならぬものです（ダメなことはダメ）」の教えが改めて注目されています。本校でも、その方針はこれまでも、これからも同じです。しかし、子どもがなぜなのかを考え、理解し、その都度判断できなければ、結局「きまり」は自分のものになっていきません。わたしたちは、「**きまり**」の示し方、与え方に工夫をし、子どもとも真剣に話し合っていきます。

学級・学校に「なかよし」の心があふれること、人が人を大切にすることがすばらしいと実感できる取組を進めます。

子どもたちの言葉づかいについては、保護者の皆様も気にかけていただいていることが見て取れますが、教員に対する言葉づかい、授業中の言葉づかい等、校内での言葉づかいにはていねいさが見られます。しかし、子どもどうしのトラブルで多いのは「あんなこと言わはった。」「こんなこと言われた。」であることは間違いなく、また、地域の方などに度を越えた言葉づかいをしていることがあるという報告も受けます。相手の立場に立つ、思いやりの気持ちをもつことは人権尊重の基本ですので、次年度には次のような取組が必要だと考えています。

- 気持ちの良いコミュニケーションのモデルとして、**2往復3方向のスピーチの取組は継続**します。
- 「**人権の3日間**」（仮称）を毎月設け、さまざまな角度から人権について楽しく学び考えます。
- 朝会を活用し、「**心が温まるいいお話**」をしたり、**英語を使った新しいコミュニケーション**に取り組んだりします。
- 情報教育の年間指導計画を策定し、1年生から継続して指導を行います。但し、その内容はケータイやスマホ、パソコンに特化したものではなく、著作権、肖像権、マナー、上手な活用法なども含めた「**情報モラル・リテラシー教育**」として実践します。

自己有用感を育てるためにも、さらに「地域に学ぶ」学習を充実させます。

本校では、「地域に学ぶ」学習を「生き方探究教育」に位置付けています。生き方探究教育とは、地域・社会とのかかわりの中で生き方を考え、生きる力をはぐくむための教育で、多くの人とのかかわりの中で、希望やあこがれ、自己有用感をもって輝き続け、幸せな将来を自ら切り拓くことがねらいですから、次年度にも取組を継続していきます。**カリキュラムを一部改訂し、さらに特色あるもの**にしていきます。

【第1学年】「きせつとあそぼう」（南太秦の自然を体感する）・お花配り

【第2学年】「ぐんぐんそだて わたしのやさい」（おいも植え・おいもパーティ）・「町をたんけん 大はっけん」（南太秦のすてきを探す）・お花配り

【第3学年】「かいこがつむいだ太秦」（蚕を通して歴史に出会う）・「やさしさいっぱい南太秦のまちⅠ」（高齢者福祉を考える、障害について学ぶ）・お花配り

【第4学年】「やさしさいっぱい南太秦のまちⅡ」（ユニバーサルデザインを考える）・「川とともに」（西高瀬川・有栖川に学ぶ）・ジュニア京都検定

【第5学年】「畑から食卓へ」（京野菜に関する学習）・「てくてく南太秦CM発信」（南太秦の魅力を探り発信する）・ジュニア京都検定・京都の伝統文化体験

【第6学年】「南太秦避難所開設」（防災・共助の学習）・「歴史の町、右京」（右京区の伝統的文化財を調べる）・「市内めぐりに出かけよう」（京都の世界文化遺産を調べる）・ジュニア京都検定

学校運営協議会 理事の皆様より（学校関係者評価）

「友だちと仲良くしている」と親も子もふり返っていることはよいことですが、その関わり合いについては目を離さないでほしい。また、「誰とでも」「いろんな人と」仲良くできているか、という視点で、わたしたち大人は子どもたちに働きかけていきたい。

各家庭では、子どもの話に耳を傾けてもらっているだろうか。人に自分の思いを話す力は、その前段階として「人の話を聞く力」が必要だ。保護者のみなさんには、そのモデルになってほしい。

遊び場が少なくてかわいそうだと思うが、人目に付きにくいところで遊んでいる子を見かけると防犯上大変気になる。学校で遊べるときはどんどん遊んでほしい。